

人権学習展開例

主 題 名 「対立」から学ぶ

教 材 名 「対立」から学ぶ

(参考文献：ウィリアム・クライドラー著「対立から学ぼう」ERIC国際理解教育センター)

人権学習の視点 普遍的な視点「コミュニケーション能力」

主題・教材について

日常生活の様々な場面で対立は起こるが、互いの話し方次第で怒りが激化することもある。冷静になり、怒りの気持ちをうまく処理できることもある。

この学習では、対立している場面を設定し、言葉や態度によって怒りが激化することに気付き対立を回避する方法を考えるを通して、コミュニケーション能力を養いたい。

ね ら い

対立が激化する要因に気付き、対立の激化を回避する方法を考え、コミュニケーションを通して互いを尊重してよりよい関係を築こうとする態度を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具	
導入	○友だちと意見が対立したり、こじれたりした経験を想起させる。	一斉	○これまでに、友だちと対立して感情的になった経験を思い起こす。	○自分の怒りの感情が押さえられなくなり、嫌な気持ちになった経験などを想起させる。		
展 開	対立場面について考えよう。					
	○対立の激化は、怒りの感情が高まる要因によって起こることに気付かせる。	個別	○ ケース1 を読み、怒りの感情が高くなる箇所はどの部分なのかを考え、線を引く。	○怒りの感情が高くなる箇所を<対立を激化させるもの>に当てはめて、要因を押さえる。	対立場面 ケース1	
		一斉	○意見を発表し合い、指摘した箇所を<対立を激化させる要因>に当てはめてみる。	○発表後、次のことを板書 <対立を激化させる要因> ●決めつけ ●過剰な一般化 ●矮小化 ●無視 ●突き放し ●過去の蒸し返し	生徒資料 No.1	
		個別	○ ケース2 を読み、怒りの感情が高くなる箇所に線を引き、その要因が何にあてはまるのかを考える。	○対立が激化する要因について客観的にとらえさせる。	対立場面 ケース2	
	解決策を考えよう。					
	○対立の激化を回避するには、どのような対応をすればよいのかを考えさせる。	個別	○対立の激化を回避するには、どのように言えばよいのかを考え、ワークシートに書く。	○<対立を激化させる要因>を除くことで、感情が高ぶったり、嫌な思いをすることが回避できることに気付かせる。	生徒資料 対立	
まとめ	○対立の激化を回避するにはどのようなことに気を付ければよいかをまとめさせる。	個別 一斉	○対立の激化を回避するにはどのようなことに気を付ければよいかをワークシートにまとめ、交流する。	○<対立を激化させる要因>にふれながら学習のまとめをさせる。 (感情的になり、人と対立するような場面では、冷静になる、きちんと人と事実を確認するなど。)	生徒資料 まとめ	

評 価

対立が激化する要因に気付き、対立の激化を回避する方法を考え、コミュニケーションを通して互いを尊重してよりよい関係を築こうとする態度を養うことができたか。